

第39週の発生動向 (2007/9/24~2007/9/30)

1. 咽頭結膜熱については、むつ保健所管内において新たに、**警報**が出されています。
2. ヘルパンギーナについては、むつ保健所管内において第34週から**警報**が継続しています。

第39週五類感染症定点把握 注:五類感染症定点把握疾病の警報・注意報については、二次保健医療圏単位で判定しています。

保健所名	東地方・青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)	東地方(再掲)		青森市(再掲)		
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点		数	定点	数	定点	
(100) インフルエンザ															0					
(72) RSウイルス感染症															0					
(73) 咽頭結膜熱	3	0.33	1	0.11							3	0.75	7	0.17	3			3	0.38	
(74) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1	0.11	7	0.78	5	0.56				7	1.17	5	1.25	25	0.60	-16			1	0.13
(75) 感染性胃腸炎	14	1.56	6	0.67	3	0.33	2	0.40	5	0.83	15	3.75	45	1.07	-15	1	1.00	13	1.63	
(76) 水痘	4	0.44	4	0.44						2	0.33	3	0.75	13	0.31	-16			4	0.50
(77) 手足口病	21	2.33	3	0.33	5	0.56	5	1.00	1	0.17	5	1.25	40	0.95	-24	2	2.00	19	2.38	
(78) 伝染性紅斑	1	0.11			2	0.22					2	0.50	5	0.12	-6			1	0.13	
(79) 突発性発しん	1	0.11	2	0.22	5	0.56	2	0.40			3	0.75	13	0.31	-5			1	0.13	
(80) 百日咳			1	0.11									1	0.02	1					
(81) 風しん															0					
(82) ヘルパンギーナ	13	1.44	2	0.22	2	0.22	3	0.60	5	0.83	32	8.00	57	1.36	-25	5	5.00	8	1.00	
(83) 麻しん(成人を除く)															0					
(84) 流行性耳下腺炎	1	0.11			3	0.33	1	0.20	3	0.50			8	0.19	0			1	0.13	
(86) 急性出血性結膜炎															0					
(87) 流行性角結膜炎															-3					
(95) マイコプラズマ肺炎					4	4.00							4	0.67	3					

保健所名	定点数				
	インフルエンザ (小児科+内科)	小児科	内科	眼科	基幹
東地方	2	1	1	0	0
弘前	15	9	6	3	1
八戸	14	9	5	2	1
五所川原	7	5	2	1	1
上十三	9	6	3	2	1
むつ	6	4	2	1	1
青森市	12	8	4	2	1
合計	65	42	23	11	6

は警報
 は注意報
 「空欄」: 患者発生数 0

表 以外の感染症法対象疾患 (注:結核については4月1日からの累計で、届出数は速報値です)

- (9) 結核(二類全数把握疾患): 八戸1人、五所川原1人 (19年計:122人)
- (14) 腸管出血性大腸菌感染症(三類全数把握疾患): 八戸1人 (19年計: 34人)
- (58) アメーバ赤痢(五類全数把握疾患): 弘前1人 (19年計: 1人)
- (64) 後天性免疫不全症候群(五類全数把握疾患): 東地方1人 (19年計: 2人)

感染症の窓

日本脳炎

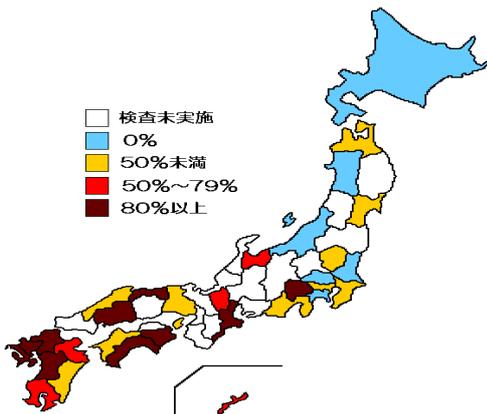


図1 プタ血清における日本脳炎ウイルス抗体保有状況 (2007/09/27 国立感染症研究所)

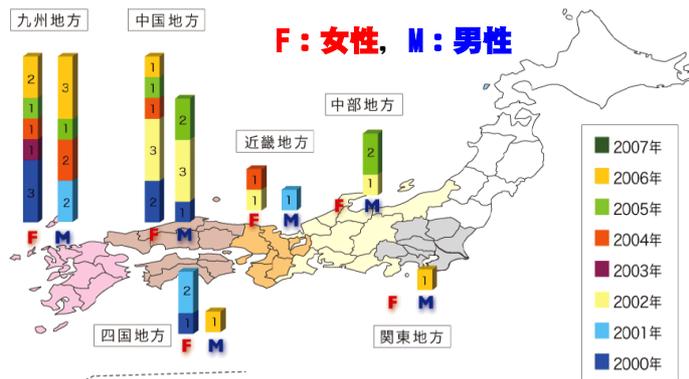


図2 日本脳炎発生地域(2000~2007年4月 国立感染症研究所)

本疾患は、日本脳炎ウイルスによって起こる感染症で、蚊(主にコガタアカイエカ)によって媒介されます。症状は、7~10日の潜伏期間の後、発熱(38以上の高熱)、頭痛、嘔吐に引き続き意識障害、筋肉の硬直などが現れます。本ウイルスは、ブタの体内で増殖し、蚊によってブタからブタにウイルスが伝播し、ヒトは、このウイルスを保有した蚊に刺されて感染(ブタ→蚊→ヒト)する経路が知られていることから、全国のブタ血清におけるウイルス抗体保有調査が実施され、9月の発表では、西日本において抗体保有率が高い傾向にあります(図1)。先月、室内犬における日本脳炎抗体陽性例が発表されています(2007/09/27報道)。国外では、極東から南アジア・オセアニア北部などに発生が見られていますが、国内における2000年以降の感染症発生動向調査では、中国・九州地方での発生が目立ちます(図2)。2007年になってからは、9月に熊本県1人、福岡県1人の届出がありました。予防方法としては、蚊に刺されない注意が必要です。ワクチンは、任意接種となっており、医療機関及び保健所等へ問い合わせ及び相談することをお勧めします。